

地域医療提供体制データ分析チーム構築支援事業 医療・介護レセプト等の分析結果

筑波大学ヘルスサービス開発研究センター

① 在宅医療(訪問診療・訪問看護)の提供数 茨城県

出典：茨城県の国民健康保険・後期高齢者医療制度の医科レセプトデータ及び介護レセプトデータを用い、令和5年10月診療(提供)分を集計対象とした。

【定義】

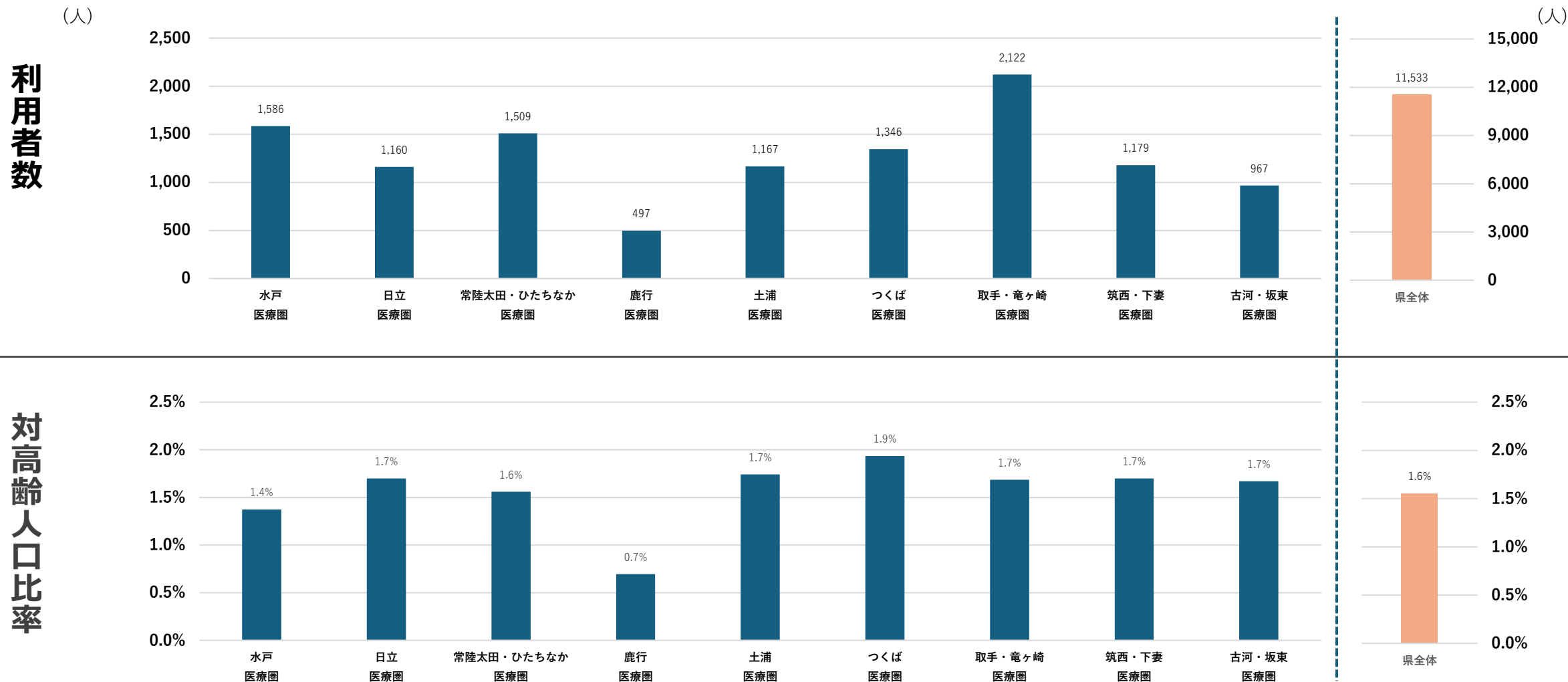
- ・訪問診療の利用者は、在宅時医学総合管理料、特定施設入居時等医学総合管理料／施設入居時等医学総合管理料、在宅がん医療総合診療料等の算定で定義した。
このうち、在宅時医学総合管理料は「自宅」、特定施設入居時等医学総合管理料／施設入居時等医学総合管理料は「施設」、それ以外は「その他」に分類した。
- ・訪問看護の利用者は、介護保険における訪問看護の利用者と定義した。
- ・末期がんにおける訪問診療および訪問看護の利用者は、在宅がん医療総合診療料の算定により定義した。

【算出方法】

- ①利用者数は、令和5年10月診療（提供）分における利用者について、重複を除いた実人数で集計した。
- ②高齢人口は、令和5年10月末時点の国民健康保険・後期高齢者医療制度の被保険者のうち65歳以上の人数を用いた。
- ③対高齢人口比率は、①利用者数÷②高齢人口で算出した。

訪問診療の提供数及び対高齢人口比率 - 全件 -

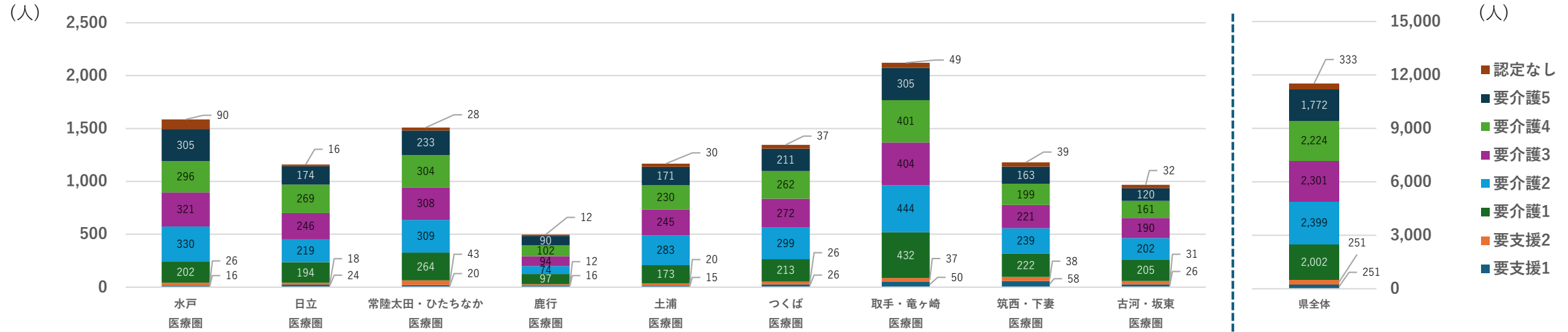
- 県全体では訪問診療利用者は約1.15万人、対高齢人口比率は1.6%であった。
- 訪問診療の利用状況には医療圏間で差がみられ、利用者数が最も多かったのは取手・竜ヶ崎医療圏、対高齢人口比率が最も高かったのはつくば医療圏であった。一方、鹿行医療圏では利用者数・比率ともに低かった。



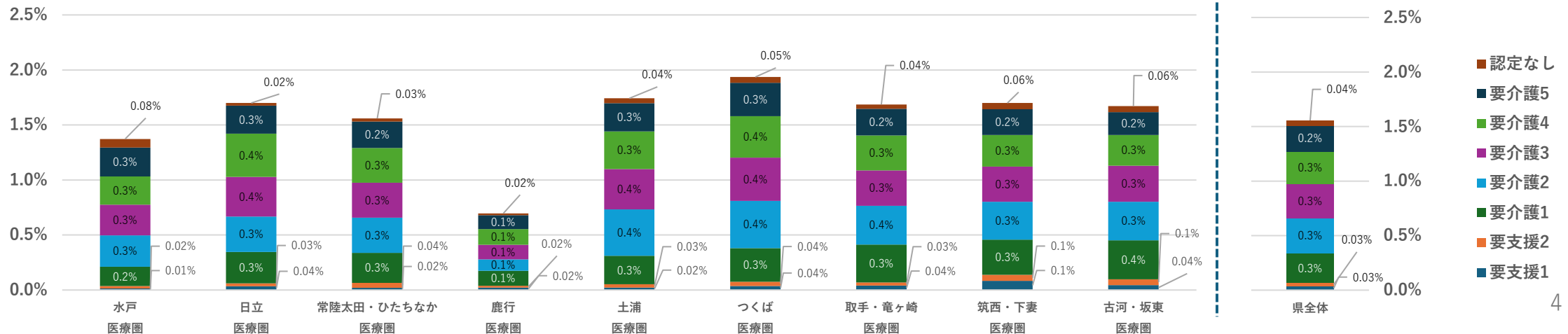
訪問診療の提供数及び対高齢人口比率 - 要介護度別 (1) -

- 県全体では、訪問診療利用者の多くは要介護1～5であった。
- 医療圏別にみると、各要介護度において、取手・竜ヶ崎医療圏では利用者数が多く、つくば医療圏では対高齢人口比率が高かった。一方、鹿行医療圏ではすべての要介護度で利用者数・対高齢人口比率が低かった。

利用者数



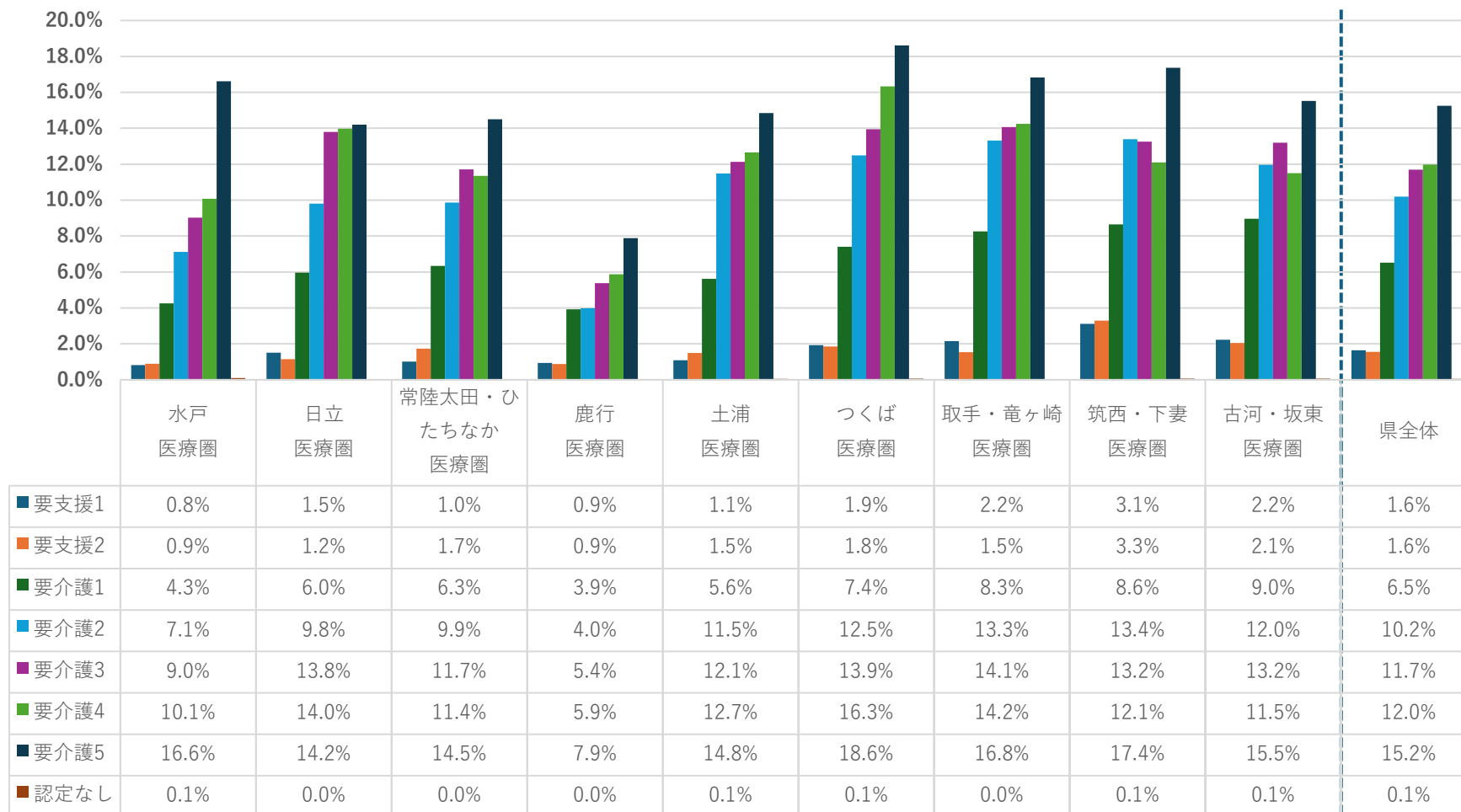
対高齢人口比率



訪問診療の提供数及び対高齢人口比率 – 要介護度別（2） –

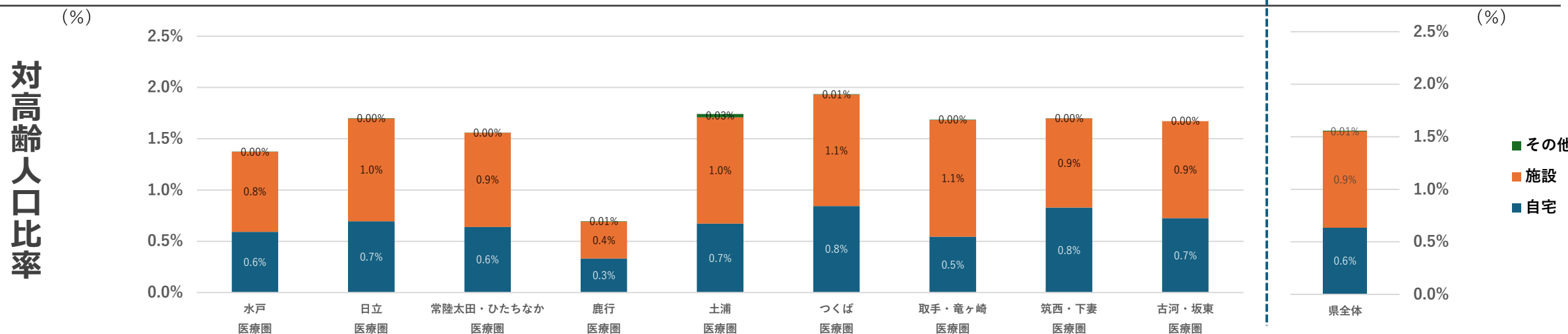
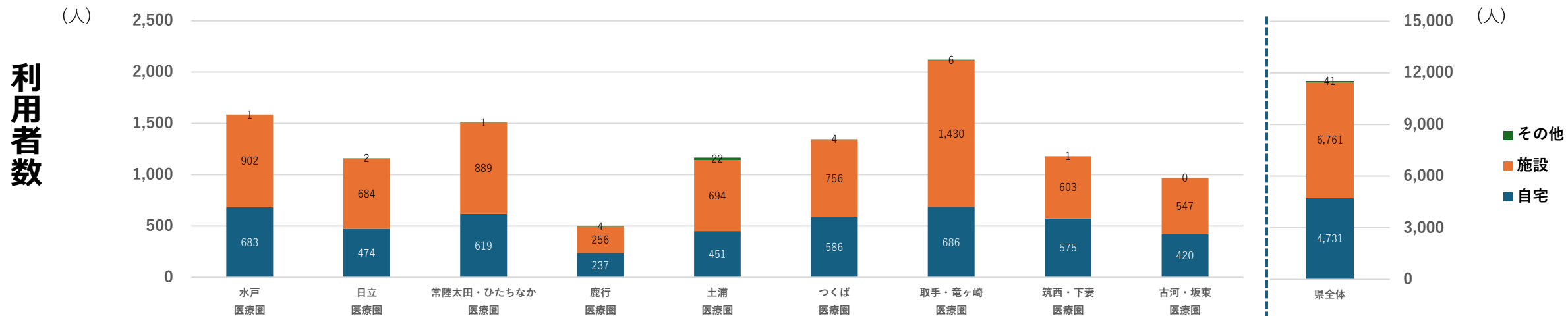
- 要介護度別の人口当たりで見ると、県全体では要介護5の利用割合が最も高かった（15.2%）。要介護度が高くなるほど利用割合が上昇する傾向がみられた。

対要介護度別人口比率



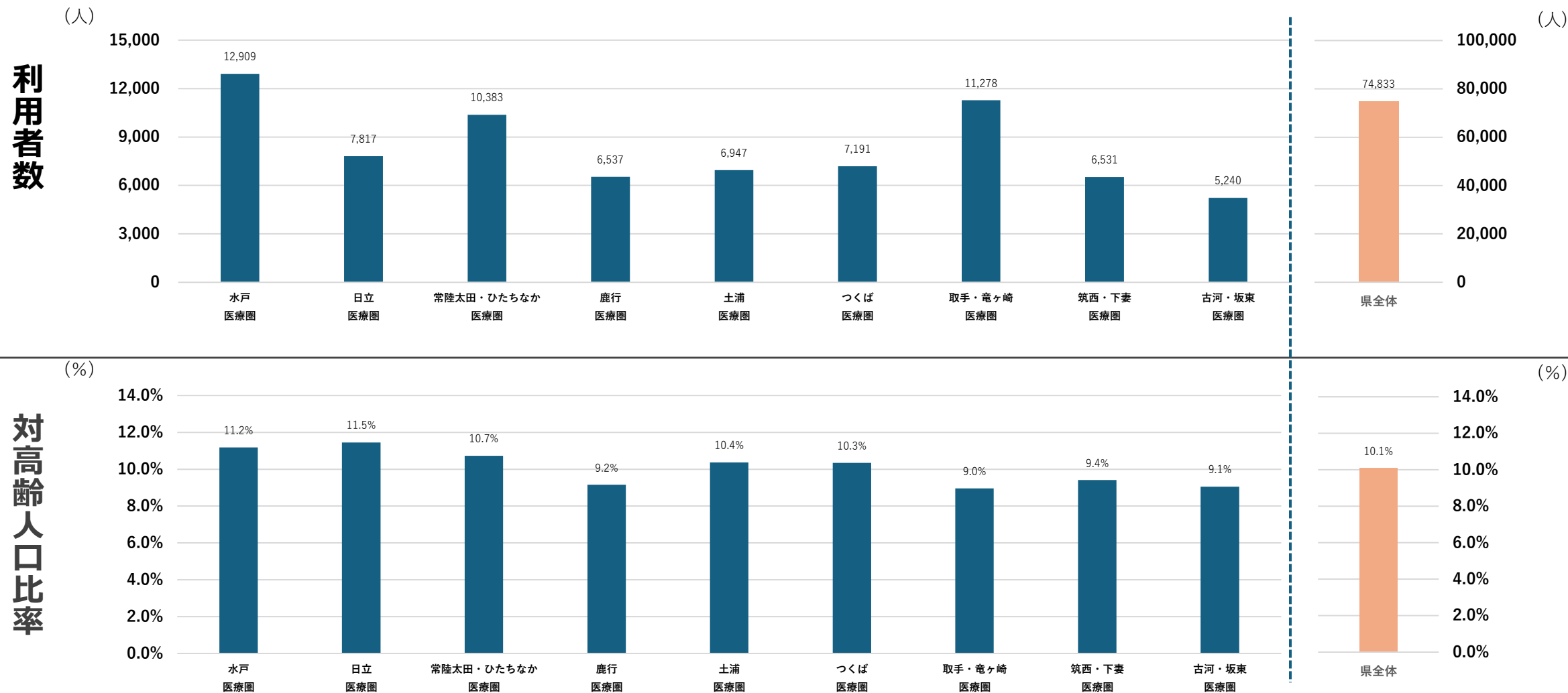
訪問診療の提供数及び対高齢人口比率 – 提供場所（自宅・施設・その他） –

- 県全体では、訪問診療の提供場所は自宅よりも施設が多かった。
- 医療圏別にみると、取手・竜ヶ崎医療圏では施設の割合が高く、筑西・下妻医療圏では自宅の割合が比較的高かった。



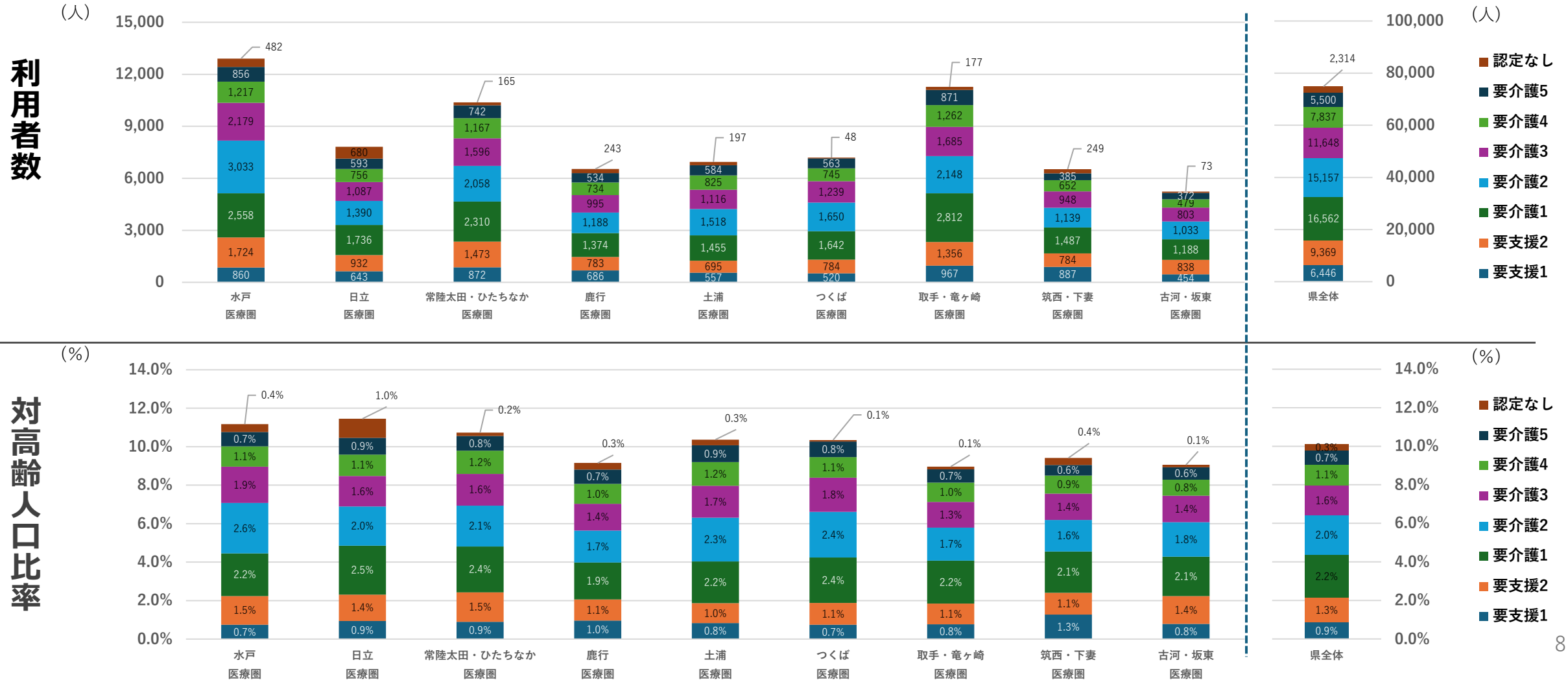
訪問看護（介護保険）の提供数及び対高齢人口比率 - 全件 -

- 県全体では訪問看護（介護保険）利用者は約7.48万人、対高齢人口比率は10.1%であった。
- 訪問看護の利用状況にも医療圏間で差がみられたが、対高齢人口比率で見ると、訪問診療と比較して差は小さかった。



訪問看護（介護保険）の提供数及び対高齢人口比率 - 要介護度別（1） -

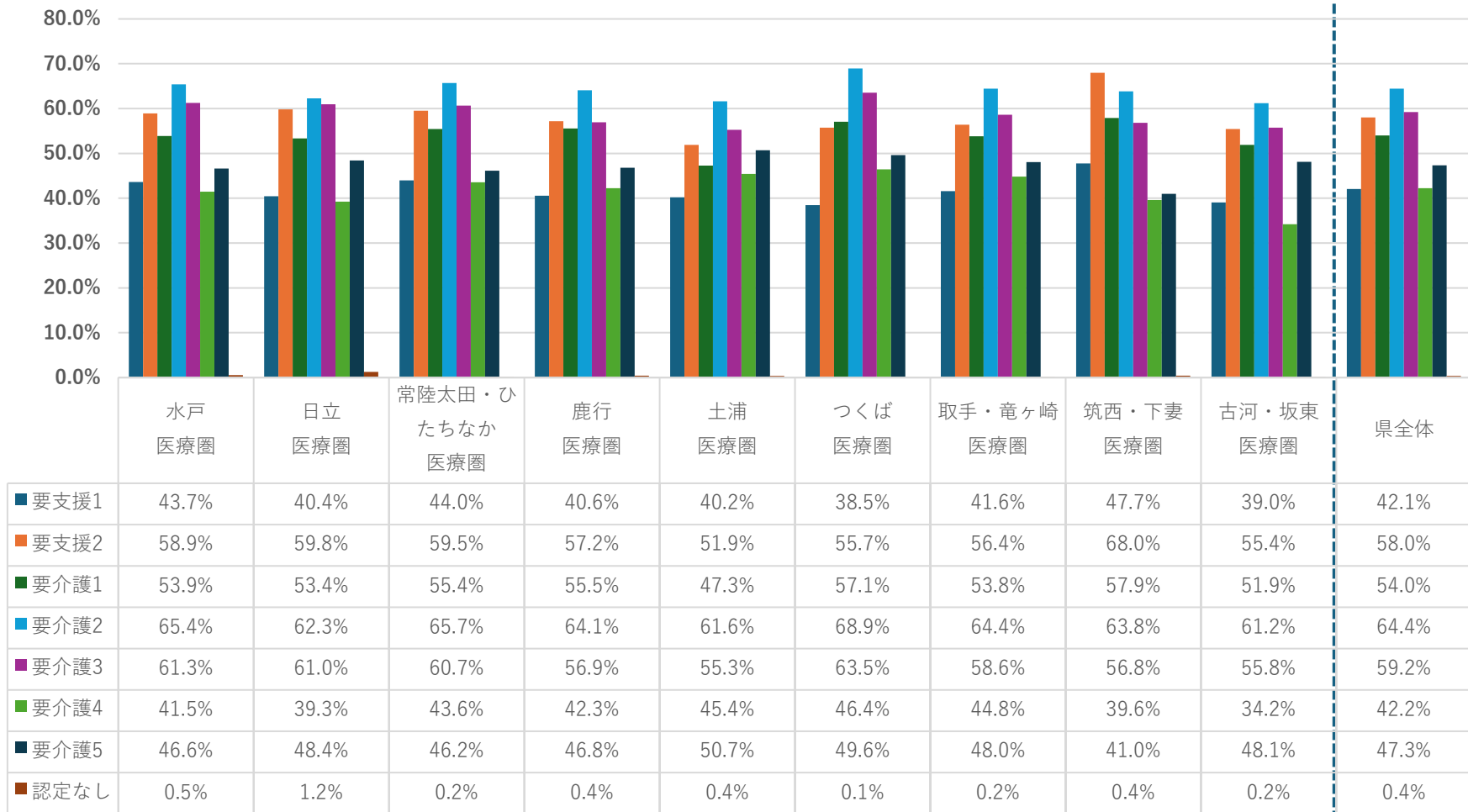
- 県全体では、訪問看護（介護保険）利用者の多くも要介護1～5であったが、要支援の利用者も一定数みられた。



訪問看護（介護保険）の提供数及び対高齢人口比率 – 要介護度別（2） –

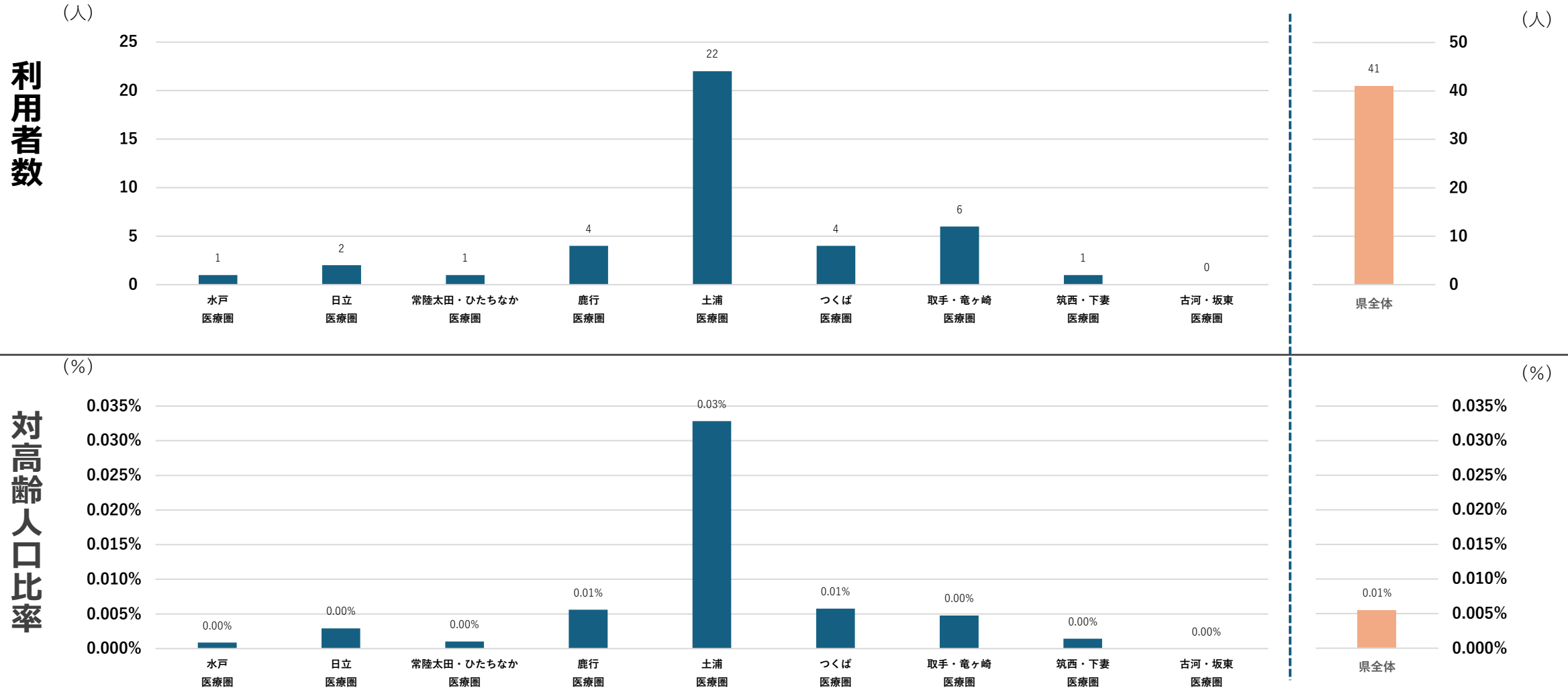
要介護度別の人口当たりで見ると、県全体では要介護2の利用割合が最も高かった（64.4%）。一方、訪問診療と比べると、要介護度による利用割合の差は比較的小さかった。

対要介護度別人口比率

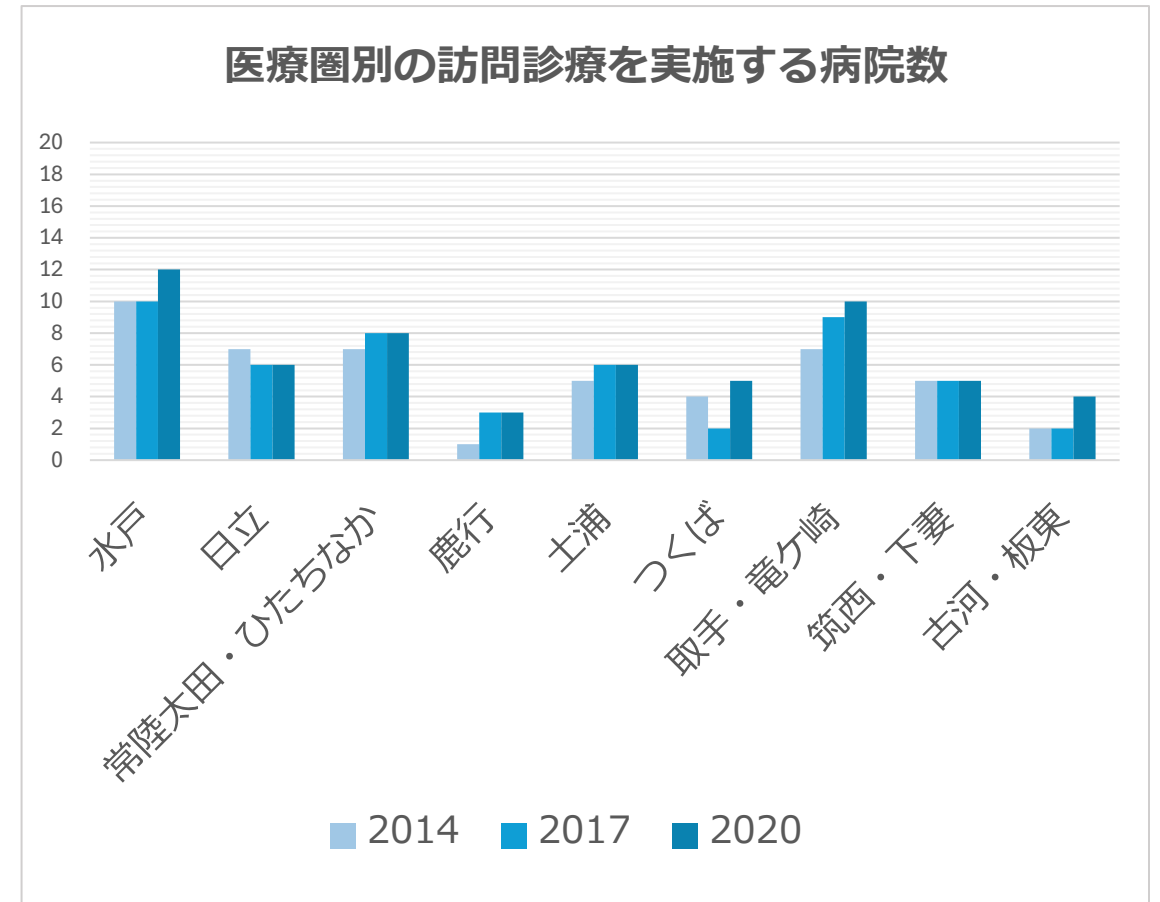
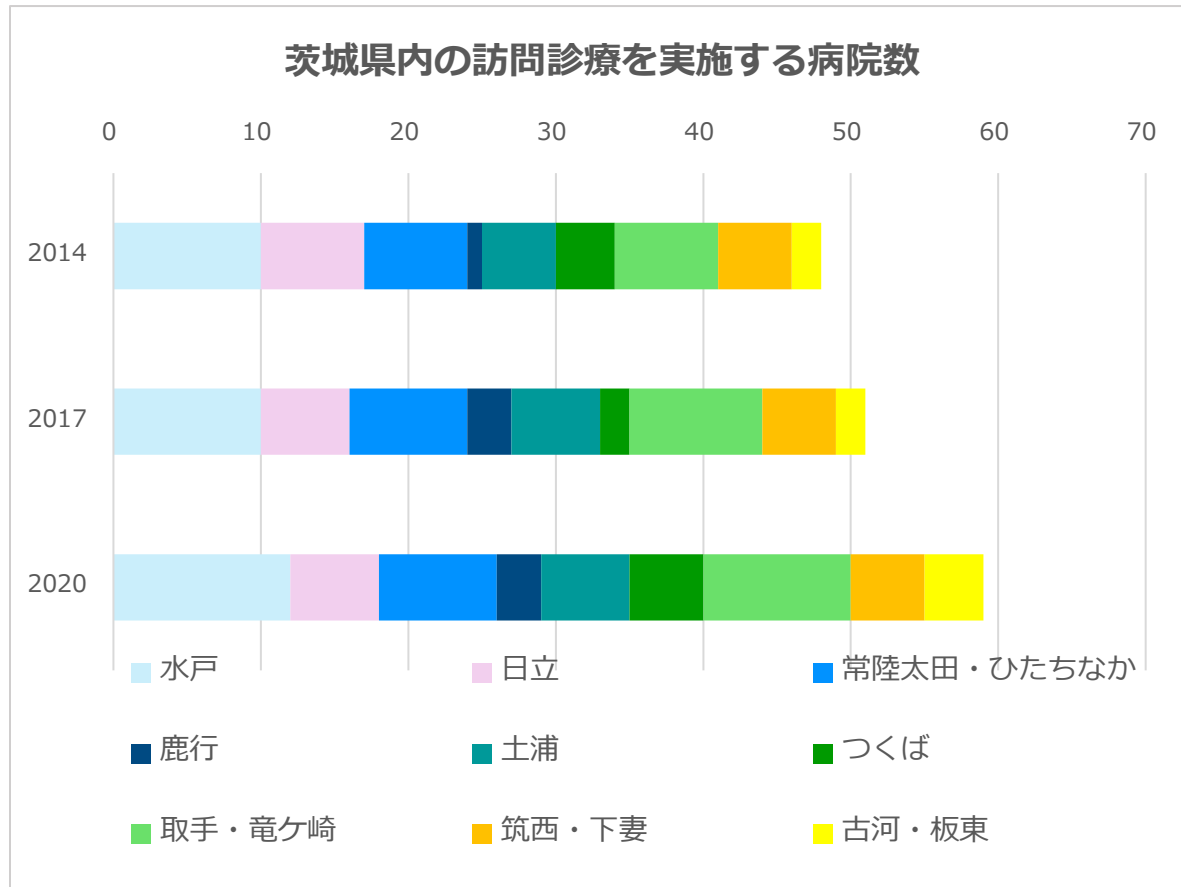


訪問診療および訪問看護の提供数及び対高齢人口比率 - 末期がん -

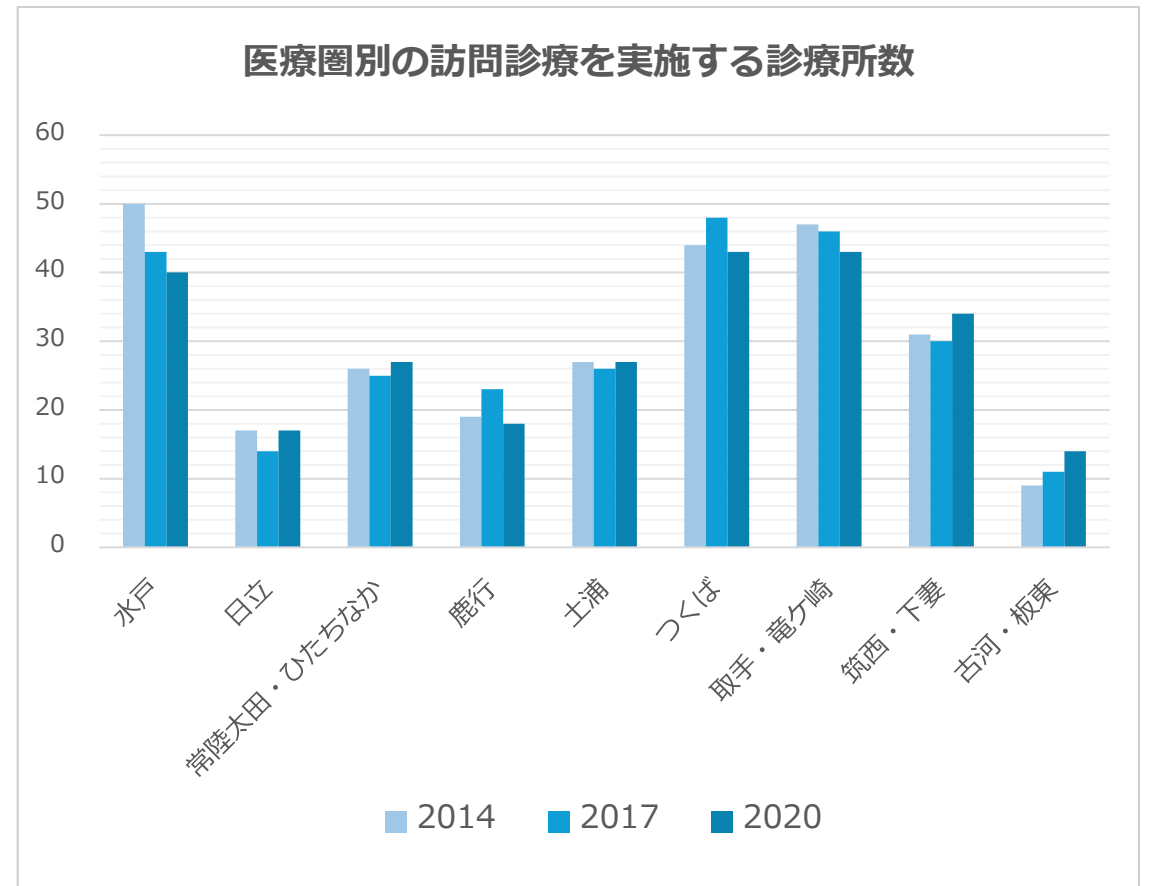
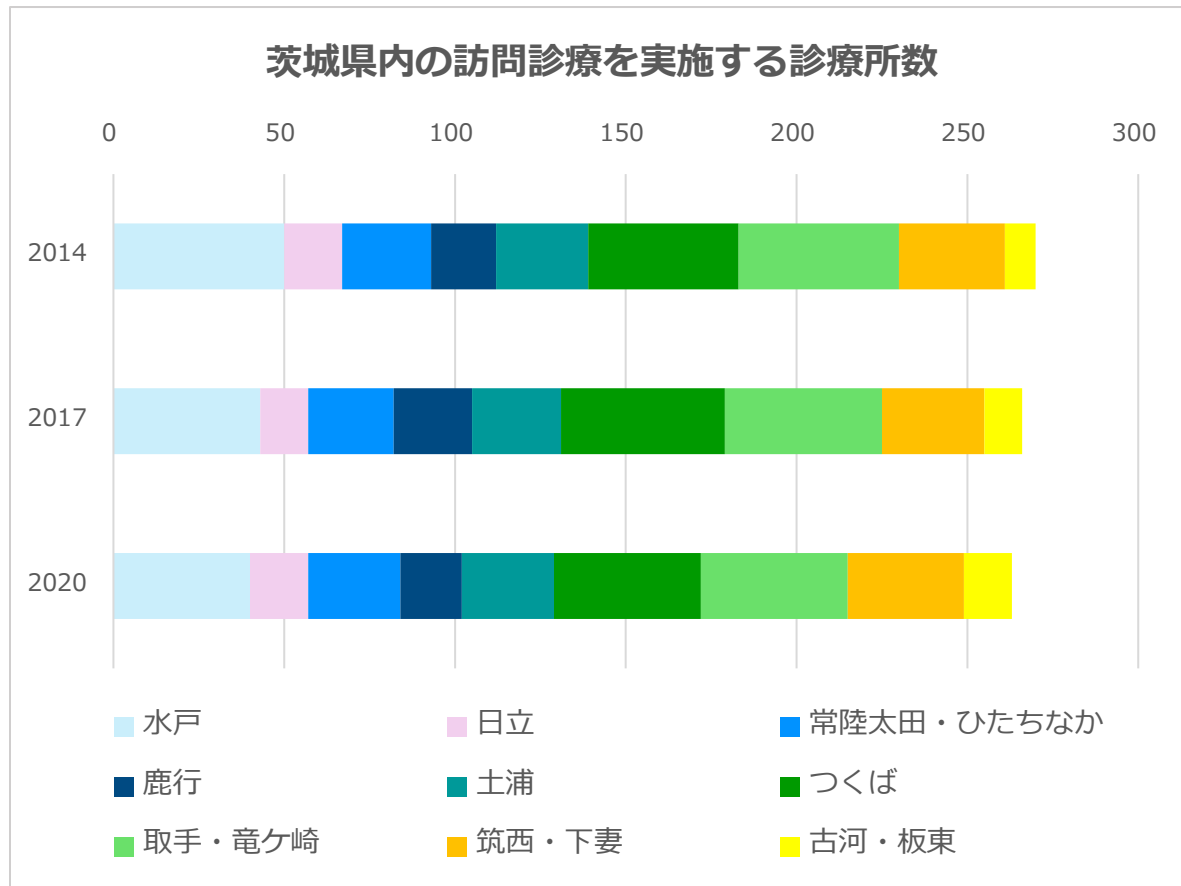
- 在宅がん医療総合診療料等を算定されている利用者は県全体で41人と少数であり、その多くは土浦医療圏であった。
- ただし、訪問診療・訪問看護を利用している末期がん患者のすべてが在宅がん医療総合診療料等を算定されているわけではなく、本指標は末期がん患者における在宅医療利用状況の全体を必ずしも網羅しているものではない。



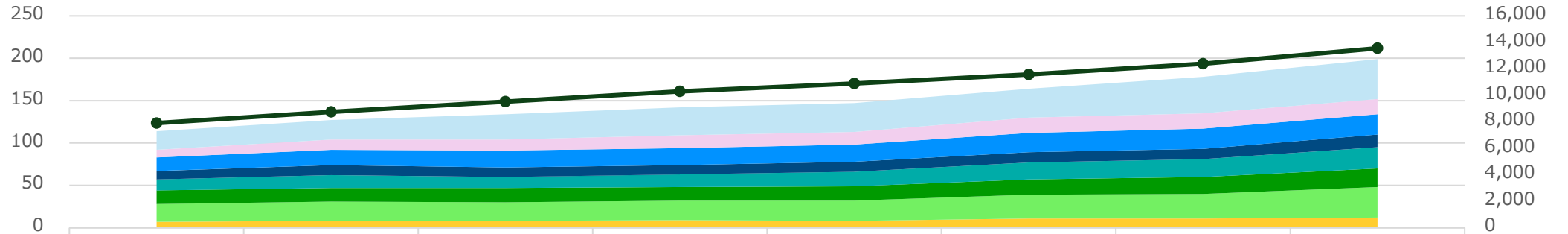
参考) 訪問診療を実施する病院数 (前年度事業成果物より)



参考) 訪問診療を実施する診療所数 (前年度事業成果物より)



参考) 訪問看護ステーション数 (前年度事業成果物より)



	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
水戸	22	23	30	33	34	34	43	47
日立	9	12	13	15	15	18	18	18
常陸太田・ひたちなか	16	18	20	20	20	23	24	24
鹿行	10	12	11	11	12	12	12	15
土浦	13	15	13	15	17	20	21	25
つくば	16	16	17	16	17	18	20	22
取得・竜ヶ崎	21	23	22	23	24	28	29	36
筑西・下妻	7	8	8	9	8	11	11	12
古河・板東	6	8	8	9	10	10	11	13
全国	7,903	8,745	9,525	10,305	10,884	11,580	12,393	13,554

② 訪問診療・介護保険施設・療養病床の利用者数 茨城県

出典：茨城県の国民健康保険・後期高齢者医療制度の医科レセプトデータ及び介護レセプトデータを用い、令和5年10月診療(提供)分を集計対象とした。

【定義】

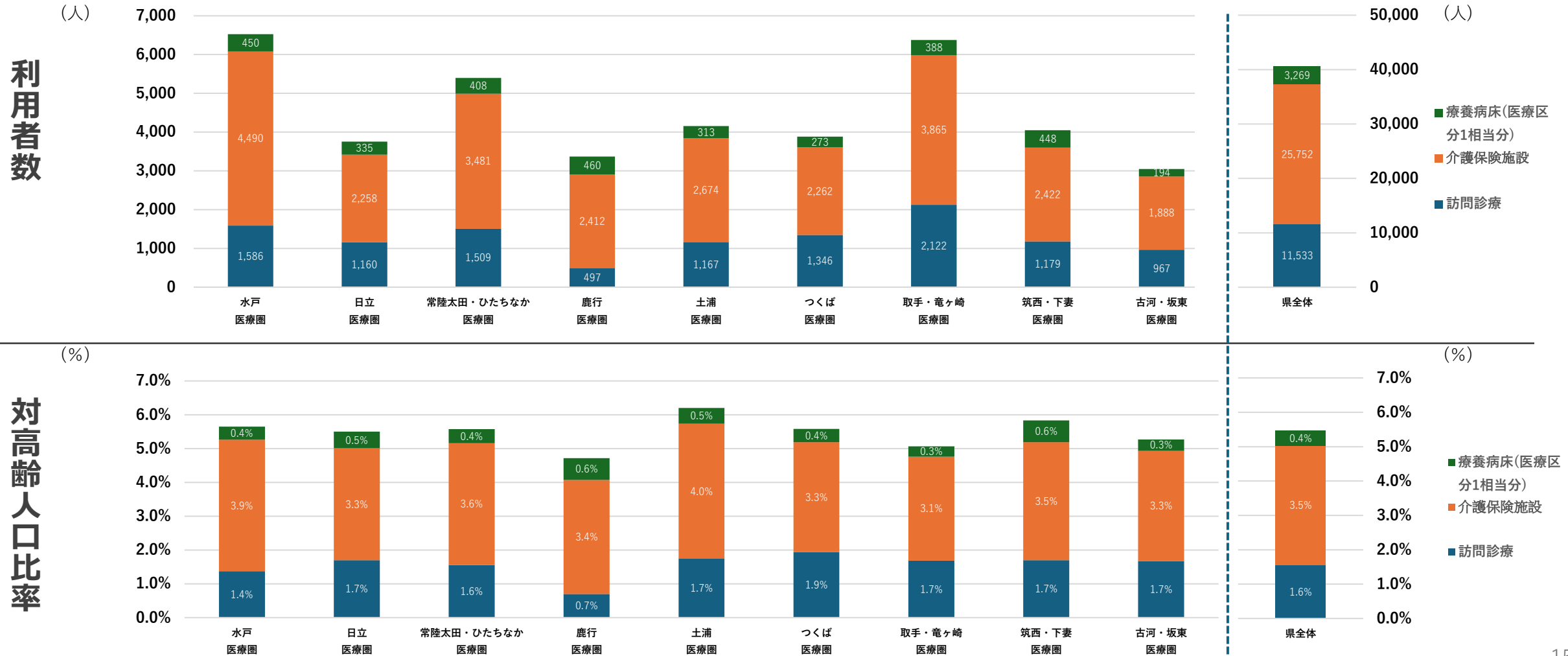
- ・訪問診療の利用者は、在宅時医学総合管理料、特定施設入居時等医学総合管理料／施設入居時等医学総合管理料、在宅がん医療総合診療料等の算定で定義した。
- ・介護保険施設の利用者は、（地域密着型）介護福祉施設サービス、介護保健施設サービス、介護医療院サービス、介護療養施設の入所者と定義した。
- ・療養病床の利用者は、療養病棟入院基本料、有床診療所療養病床入院基本料の算定で定義した。

【算出方法】

- ①利用者数は、令和5年10月診療（提供）分における利用者について、重複を除いた実人数で集計した。
- ②高齢人口は、令和5年10月末時点の国民健康保険・後期高齢者医療制度の被保険者のうち65歳以上の人数を用いた。
- ③対高齢人口比率は、①利用者数÷②高齢人口で算出した。

訪問診療・介護保険施設・療養病床（医療区分1相当分）利用者数及び対高齢人口比率

- 訪問診療、介護保険施設、療養病床（医療区分1相当）の利用者数は、いずれの医療圏においても介護保険施設が最も多く、次いで訪問診療、療養病床の順であった。
- 一方、これらの内訳は医療圏間でやや異なっており、例えば鹿行医療圏では訪問診療の利用が少なく、相対的に介護保険施設および療養病床（医療区分1相当）の利用が多かった。



③ 在宅医療(訪問診療・訪問看護)の提供数 土浦医療圏

出典：茨城県の国民健康保険・後期高齢者医療制度の医科レセプトデータ及び介護レセプトデータを用い、令和5年10月診療(提供)分を集計対象とした。

【定義】

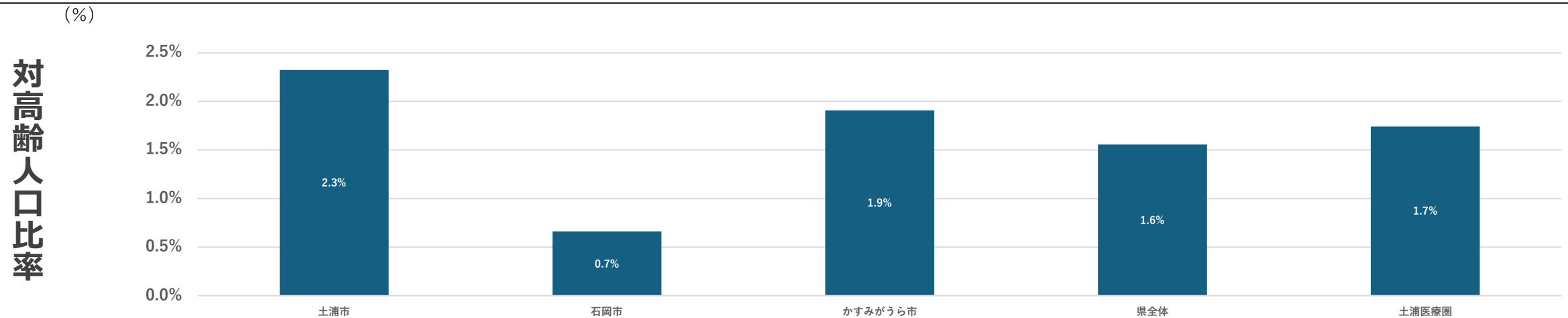
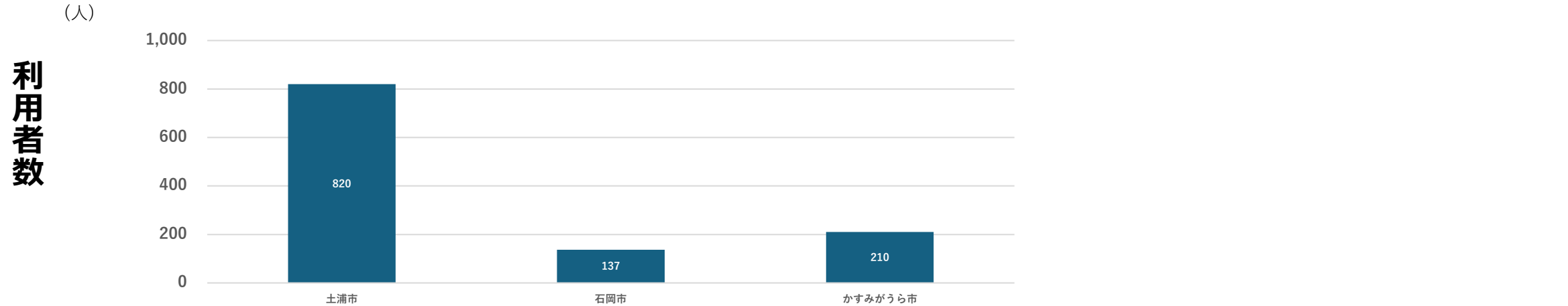
- ・ 訪問診療の利用者は、在宅時医学総合管理料、特定施設入居時等医学総合管理料／施設入居時等医学総合管理料、在宅がん医療総合診療料等の算定で定義した。
このうち、在宅時医学総合管理料は「自宅」、特定施設入居時等医学総合管理料／施設入居時等医学総合管理料は「施設」、それ以外は「その他」に分類した。
- ・ 訪問看護の利用者は、介護保険における訪問看護の利用者と定義した。
- ・ 末期がんにおける訪問診療および訪問看護の利用者は、在宅がん医療総合診療料の算定により定義した。

【算出方法】

- ①利用者数は、令和5年10月診療（提供）分における利用者について、重複を除いた実人数で集計した。
- ②高齢人口は、令和5年10月末時点の国民健康保険・後期高齢者医療制度の被保険者のうち65歳以上の人数を用いた。
- ③対高齢人口比率は、①利用者数÷②高齢人口で算出した。

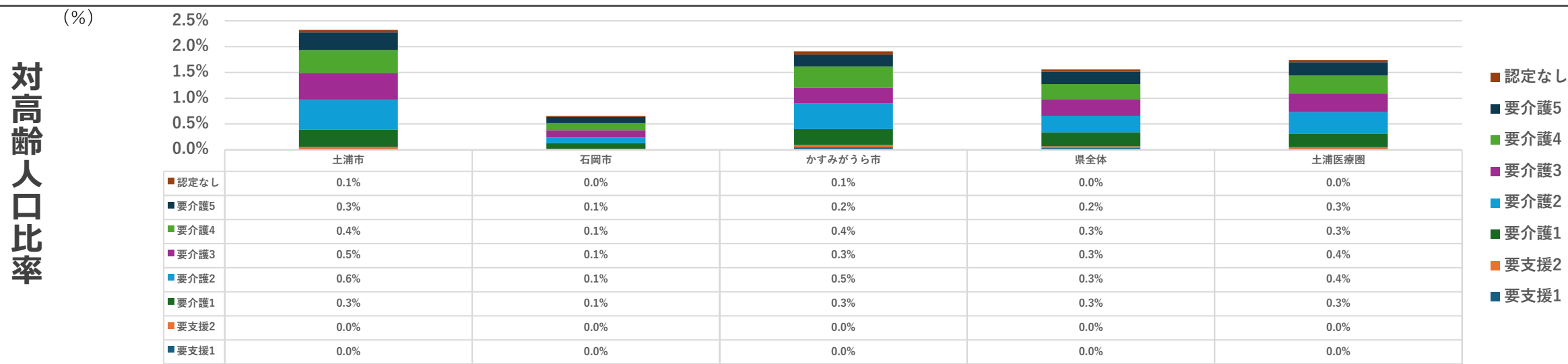
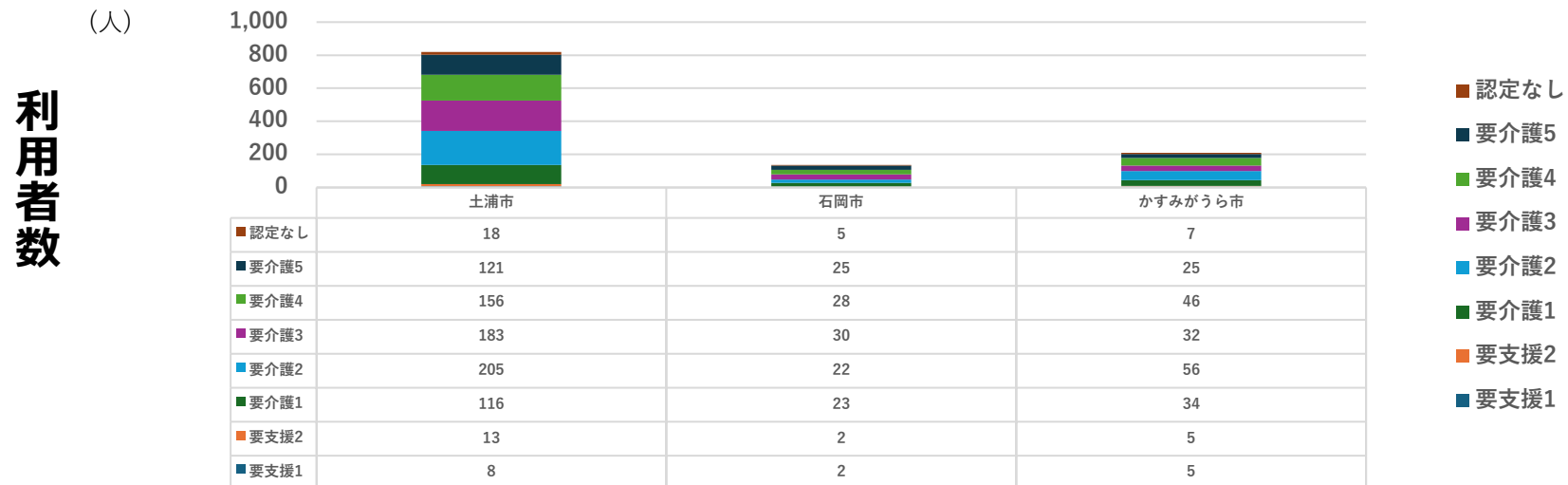
訪問診療の提供数及び対高齢人口比率 - 全件 -

- 土浦医療圏における訪問診療利用者の対高齢人口比率は1.7%であり、県全体（1.6%）と比べてやや高かった。
- 訪問診療の利用状況には自治体間で差がみられ、利用者数・対高齢人口比率ともに最も高かったのは土浦市であった。一方、石岡市では、利用者数・対高齢人口比率ともに最も低かった。



訪問診療の提供数及び対高齢人口比率 – 要介護度別（1） –

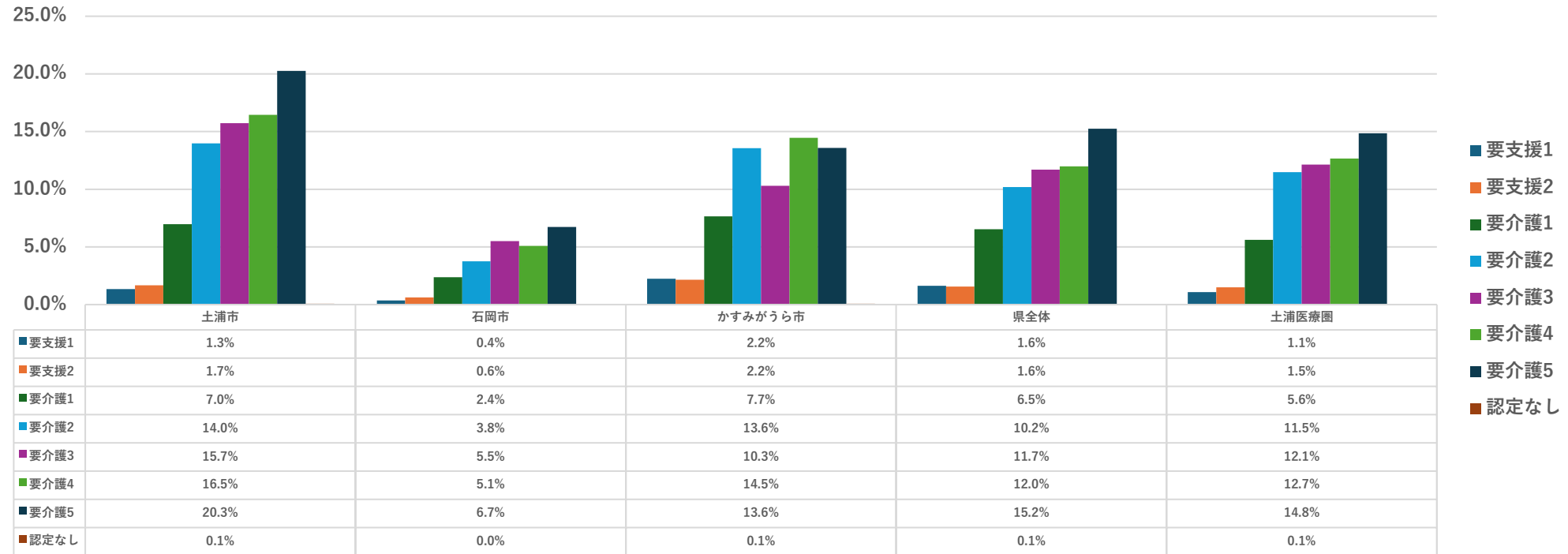
- すべての自治体において訪問診療利用者の多くは要介護1～5であり、県全体と大きくは変わらなかった。



訪問診療の提供数及び対高齢人口比率 – 要介護度別（2） –

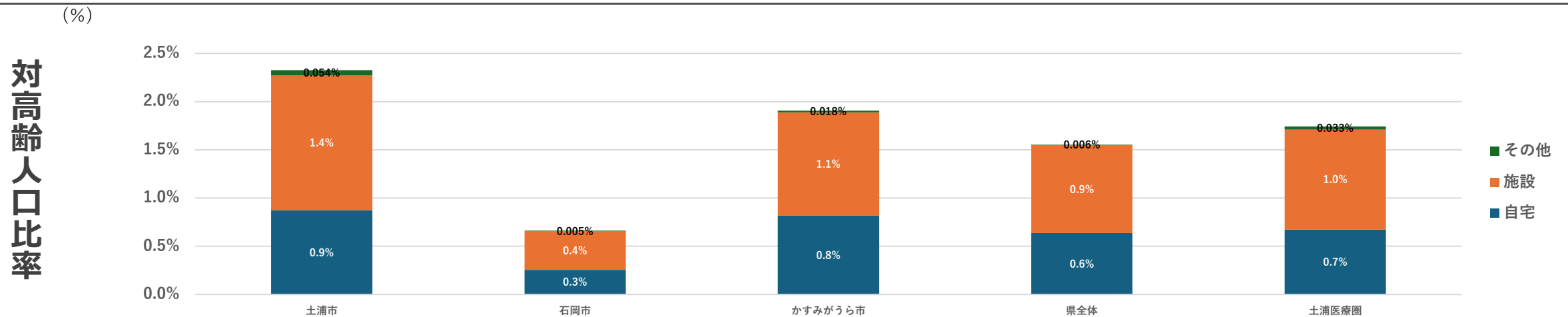
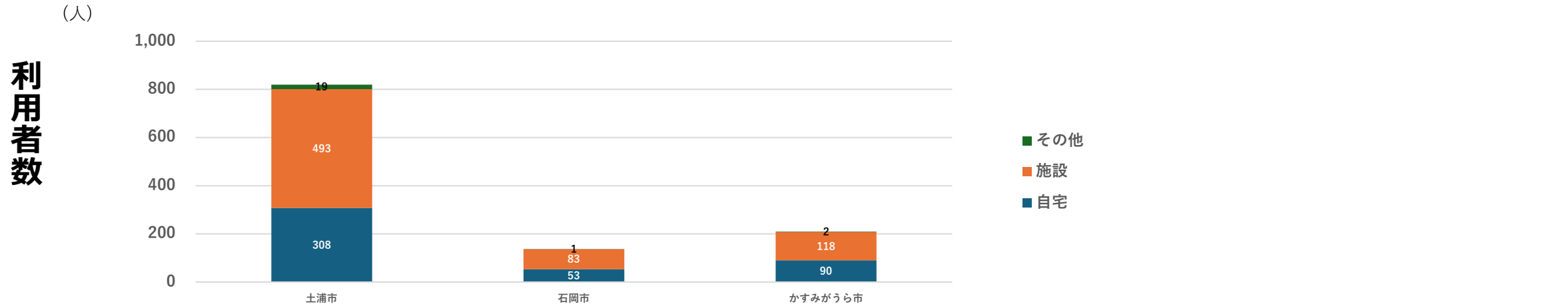
- 要介護度別の人口当たりで見ると、県全体（15.2%）、土浦医療圏（14.8%）ともに要介護5の利用割合が最も高く、県全体と土浦医療圏の傾向は概ね一致していた。
- 自治体別にみると、土浦市ではほとんどの要介護度で利用割合が高く、石岡市では全体的に利用割合が低い傾向にあった。

対要介護別人口比率



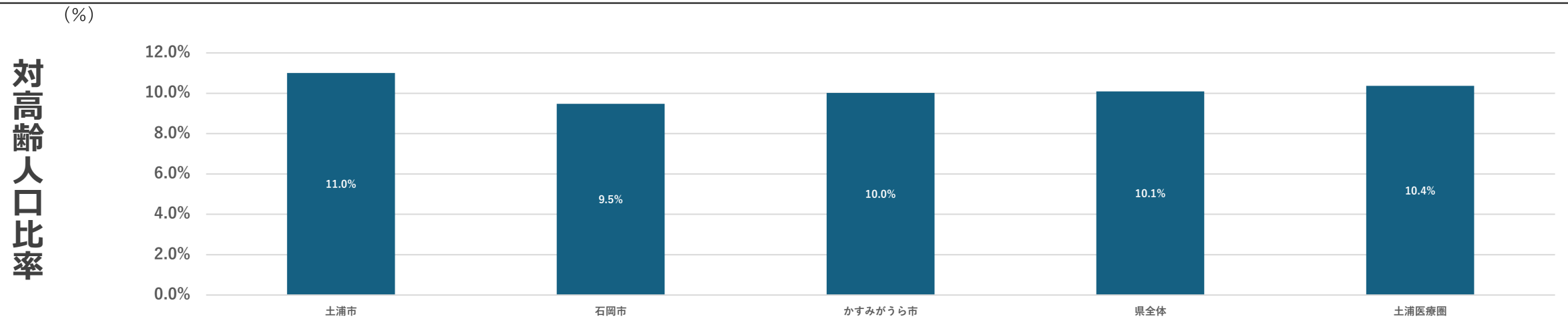
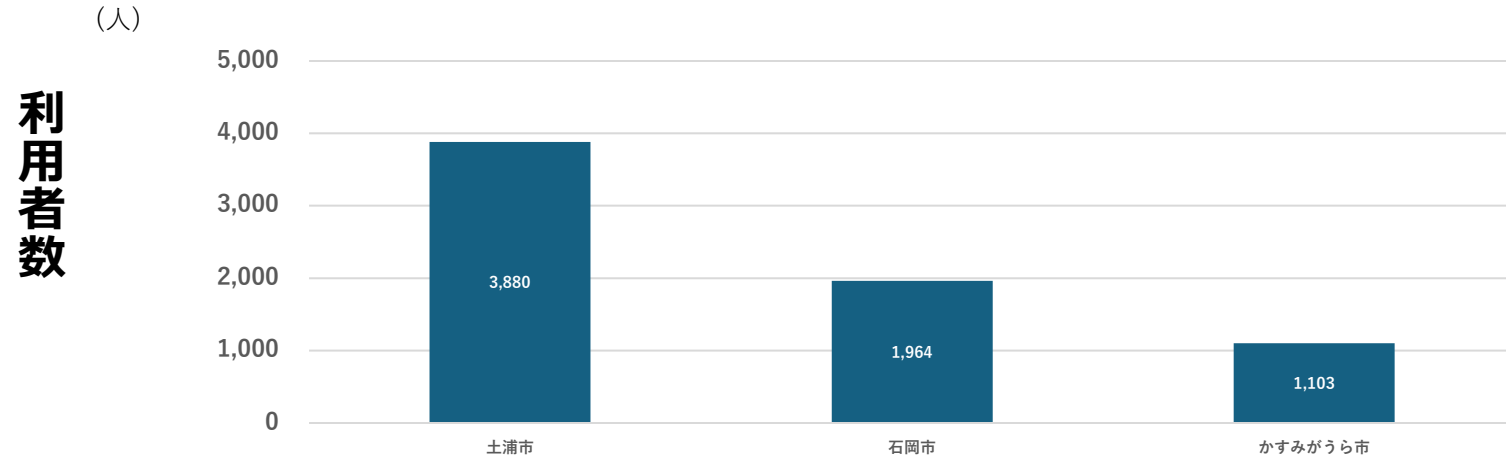
訪問診療の提供数及び対高齢人口比率 – 提供場所（自宅・施設・その他） –

- 土浦医療圏全体では、訪問診療の提供場所は自宅よりも施設が多かった。
- 自治体別にみても、すべての自治体で自宅よりも施設が多い傾向は変わらなかった。



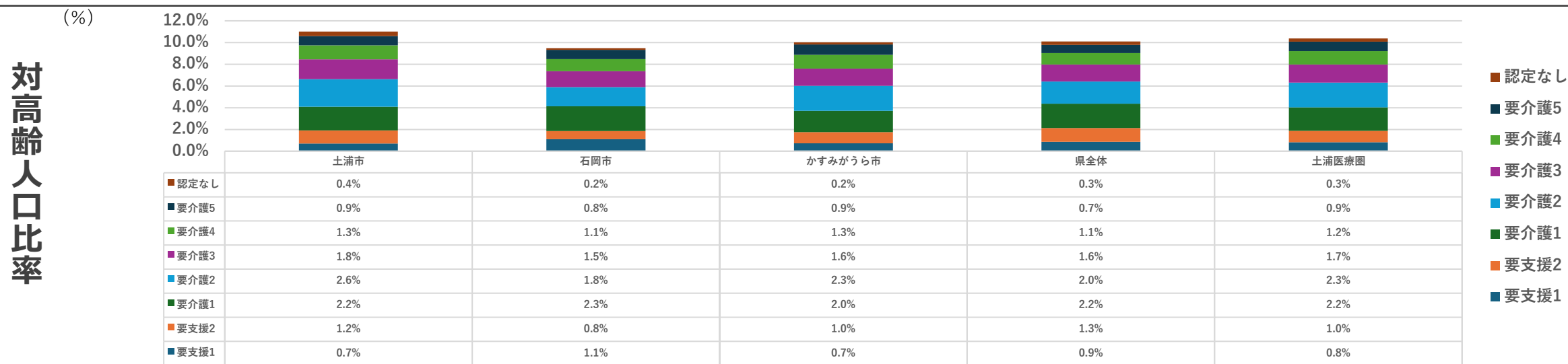
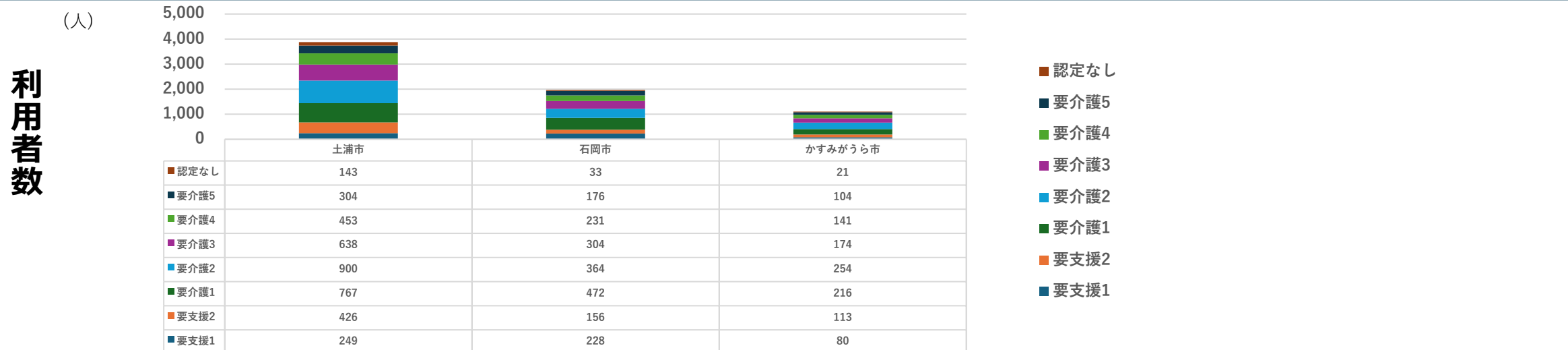
訪問看護（介護保険）の提供数及び対高齢人口比率 - 全件 -

- 土浦医療圏における訪問看護（介護保険）利用者の対高齢人口比率は10.4%であり、県全体（10.1%）と比べてやや高かった。
- 訪問看護の利用状況は、対高齢人口比率で見ると、自治体間で大きな差はみられなかった。



訪問看護（介護保険）の提供数及び対高齢人口比率 - 要介護度別（1） -

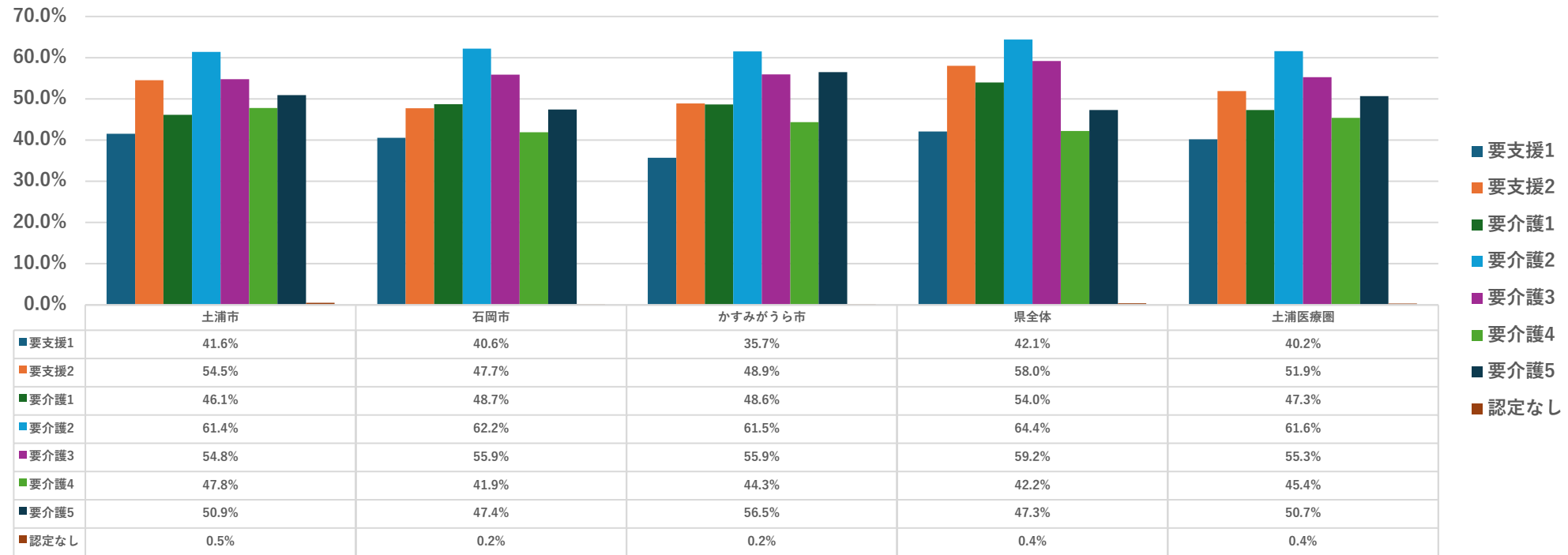
- すべての自治体において、訪問看護（介護保険）利用者の多くは要介護1～5であったが、要支援の利用者も一定数みられた。県全体の傾向とも大きく変わりはない。



訪問看護（介護保険）の提供数及び対高齢人口比率 – 要介護度別（2） –

- 要介護度別の人口当たりで見ると、県全体（64.4%）、土浦医療圏（61.6%）ともに、要介護2の利用割合が最も高かった。
- 自治体別で大きな傾向の差はみられなかった。

対要介護度別人口比率

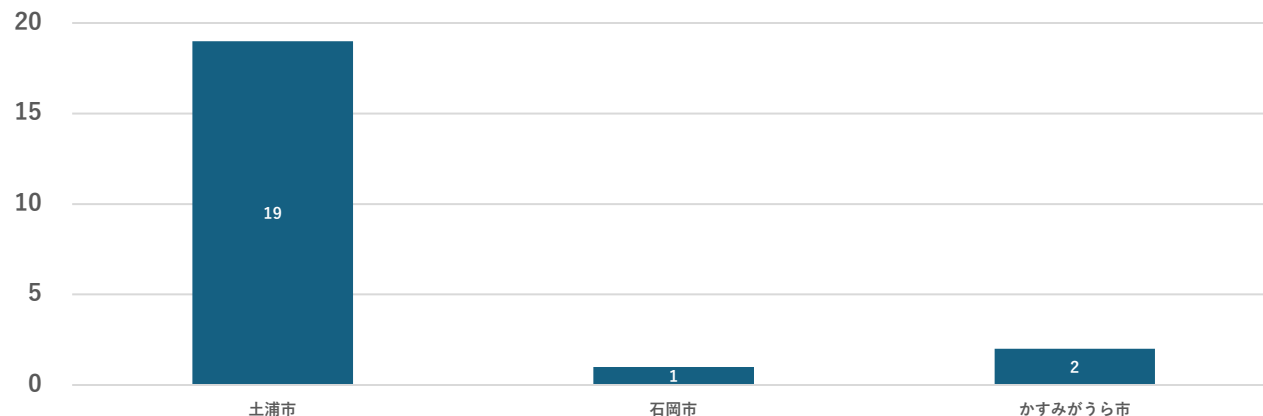


訪問診療および訪問看護の提供数及び対高齢人口比率 - 末期がん -

- 土浦医療圏では在宅がん医療総合診療料等を算定されている利用者が県全体よりも多く、特に土浦市が多かった。
- ただし、訪問診療・訪問看護を利用している末期がん患者のすべてが在宅がん医療総合診療料等を算定されているわけではなく、本指標は末期がん患者における在宅医療利用状況の全体を必ずしも網羅しているものではない。

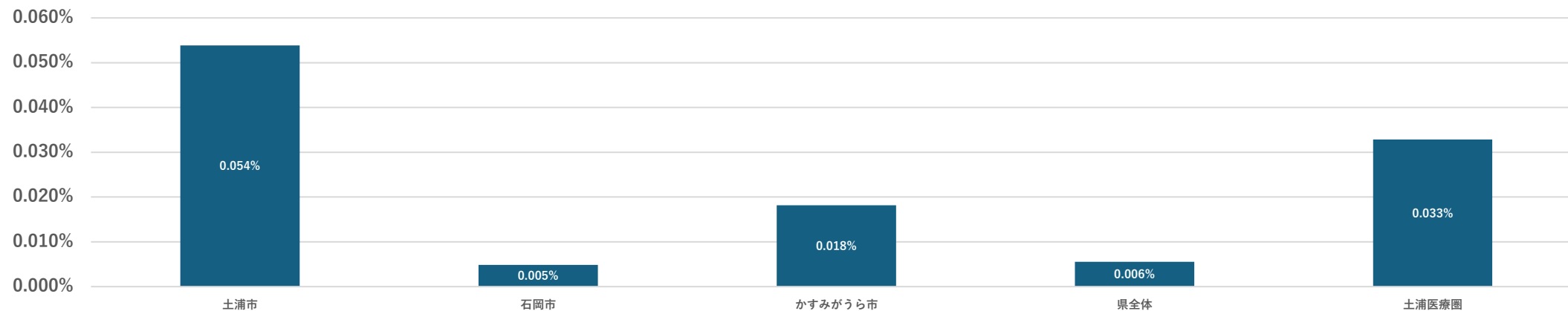
(人)

利用者数



(%)

対高齢人口比率



④ 訪問診療・介護保険施設・療養病床の利用者数 土浦医療圏

出典：茨城県の国民健康保険・後期高齢者医療制度の医科レセプトデータ及び介護レセプトデータを用い、令和5年10月診療(提供)分を集計対象とした。

【定義】

- ・訪問診療の利用者は、在宅時医学総合管理料、特定施設入居時等医学総合管理料／施設入居時等医学総合管理料、在宅がん医療総合診療料等の算定で定義した。
- ・介護保険施設の利用者は、（地域密着型）介護福祉施設サービス、介護保健施設サービス、介護医療院サービス、介護療養施設の入所者と定義した。
- ・療養病床の利用者は、療養病棟入院基本料、有床診療所療養病床入院基本料の算定で定義した。

【算出方法】

- ①利用者数は、令和5年10月診療（提供）分における利用者について、重複を除いた実人数で集計した。
- ②高齢人口は、令和5年10月末時点の国民健康保険・後期高齢者医療制度の被保険者のうち65歳以上の人数を用いた。
- ③対高齢人口比率は、①利用者数÷②高齢人口で算出した。

訪問診療・介護保険施設・療養病床（医療区分1相当分）利用者数及び対高齢人口比率

- 訪問診療、介護保険施設、療養病床（医療区分1相当）の利用者数は、土浦医療圏全体では介護保険施設が最も多く、次いで訪問診療、療養病床の順であった。
- これらの内訳は自治体間でやや異なっていたが、これらを合計した対高齢人口比率で見ると、訪問診療単独でみた場合に比べて自治体間の差は小さく、各サービスが相互に補完的に機能している可能性が示唆された。

